信州医誌，54(1)：11～20，2006

# 留学生の日本留学満足度に資する奨学金のあり方とは
## ―医学研究科中国人留学生の視点から―

牧　　かずみ
信州大学医学部国際交流室

# How Can Scholarships Better Contribute to Chinese Students' Satisfaction in Studying in Japan ?

Kazumi MAKI
*Office of International Cooperation and Exchanges, Shinshu University School of Medicine*

**Key words** : scholarships, excellence, financial hardships, recommendation criteria, satisfaction from overseas study
奨学金，優秀性，困窮度，推薦基準，留学満足度

## I　はじめに

外国人私費留学生達は，通常，筆者からは「日本の生活費は高いです。少なくとも最初の１年間は奨学金なしでも自活できるだけの準備をして渡日することを強く勧めます」と案内され，一方指導教授からは「アルバイトをしないで生活できるだけの経費支弁能力があるなら，受入れます」と言われて入国する。それでも，到着の翌日に「奨学金はありませんか」と言って相談に訪れるということが，私費留学生の増加と合せて続いていた。日本人は「奨学金は運がよければ当たるもの」で，だめなら「仕方ない」と捉えるのが一般的と言えるかもしれない。では，文化や経済状況や貨幣基準が異なる外国人留学生達は奨学金をどういうものと受け止めているのだろうか。特に当医学部でほぼ100％を占める中国人留学生は日本人と同じ様に捉えているのだろうか。

2004年度より，全国的にみても受入れ外国人留学生数の増加にはややブレーキがかかった感があるが，私費留学生の占める割合は相変わらず高く（注１），前・日本国際教育協会（現・日本学生支援機構）や各大学留学生センターなどによる外国人留学生の生活実態調査には，生活費と学費をアルバイトで賄っている苦学生の姿が描かれることが多い。しかし，留学生にとって奨学金がどういうもので，どんな人が受給すべきものと考えているのか調査した資料や報告にはなかなか出会わない。

最もふさわしい学生が採用されるように，財団に推薦者を送る大学側も，受給者を決定するどの財団も，最大限に心を砕いており，より多くの留学生ができるだけ公平に奨学金を受給できるよう，努力している関係者の苦労話にも事欠かない[1)-5)]。しかし，採用されなかった留学生からの不満はなかなか解消されない。不満はどこから来るのか。彼らの不公平感を軽減するためには何が必要なのか。

## II　不満の原因となりうる項目

当学部の留学生が応募できる民間奨学金は，学生が直接申請できる５件を含めて，現在21件である（表１）。それらは支給金額，採用確率とも一律ではなく，確率はよいとは言いがたい。支給期間は１年か最長２年までで，しかも多くは他の奨学金との重複受給を禁じている。このところ留学生数が減少しているとは言え，採用確率から言えば奨学金の数が多いとは言えない。そしてそれらの財団は，多くの場合「学業・人物ともに優秀で，援助を必要としている留学生」を条件としているが，優秀性の基準を具体的に明記したケースは少ない。

留学生奨学団体連絡協議会による調査報告書[6)]では，奨学金は大学を通して募集するものが大半である（69％）ことが分かっている。その理由として，① 必要な情報が得られる，② 選考が容易になる，③ 大学担

別刷請求先：牧　かずみ　〒390-8621
松本市旭３－１－１　信州大学医学部国際交流室

表１　信州大学医学部留学生対象の民間奨学金リスト

| | 奨学金名 | 月額(万円) | 年齢制限 | 重複受給 | 留学生に求める条件 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | ロータリー | 15,12 | Y | 不可 | 学業優秀 | 異文化理解 | コミュニケーション力 | 交流・ヴォランティア | | |
| 2 | 岩谷国際 | 15 | Y | 不可 | 国際理解・親善 | | | | | |
| 3 | 佐川留学生 | 10 | Y | 不可 | 学業優秀 | 人物優秀 | 心身健康 | 要援助 | | |
| 4 | 平和中島 | 12,10(２年) | N | ３万未満 | 学業優秀 | 人物優秀 | | | | |
| 5 | アジア国際交流 | ７，６ | Y | 不可 | 品行方正 | 学業優秀 | 身体強健 | 要援助 | | |
| 6 | ソロプチミスト | 8 | N | 不可 | 学業優秀 | 人物優秀 | 心身健康 | 要援助 | | |
| 7 | エプソン | 10 | N | 不可 | 要援助 | 心身健康 | 学業優秀 | 人物優秀 | | |
| 8 | 金原一郎 | 10 | N | 可 | 条件記載なし | | | | | |
| 9 | サトー国際 | 13,10 | N | ５万未満 | 学業優秀 | 国際理解・親善 | 交流・ヴォランティア | | | |
| 10 | 共立国際 | 10 | N | 不可 | 要援助 | 人物優秀 | 学業優秀 | 心身健康 | コミュニケーション力 | 国際理解・親善 |
| 11 | 共立メインテナンス | 6 | N | ５万未満 | 要援助 | 人物優秀 | 学業優秀 | 心身健康 | コミュニケーション力 | 国際理解・親善 |
| 12 | 川嶋 | 10 | N | ５万未満 | 学業優秀 | 人物優秀 | 要援助 | | | |
| 13 | ゾンタ | 3 | N | 不可 | 学業優秀 | 人物優秀 | 要援助 | 国際理解・親善 | | |
| 14 | ドコモ留学生 | 12(２年) | N | 不可 | 条件記載なし | | | | | |
| 15 | 神林留学生 | 10 | N | ５万未満 | 要援助 | 学業優秀 | 交流・ヴォランティア | | | |
| 16 | 船井情報 | ６，５ | Y | 不可 | 学業優秀 | 人物優秀 | 心身健康 | 要援助 | | |
| ＊17 | 伊藤国際 | 18(2年) | YN | 不可 | 学業優秀 | 人物優秀 | 要援助 | コミュニケーション力 | | |
| ＊18 | とうきゅう外来 | 16 | Y | ３万未満 | 国際理解・親善 | | | | | |
| ＊19 | 東華教育文化 | ８(２年) | N | 可 | 学業優秀 | 心身健康 | 要援助 | | | |
| ＊20 | 北信財団 | 2 | N | 可 | 学業優秀 | 人物優秀 | 心身健康 | 要援助 | | |
| ＊21 | CWAJ | 200/yr | N | ２百万未満 | 条件記載なし | | | | | |

＊本人直接申請　　Y：あり　N：なし　YN：好ましい

当者との接点ができる，といったことが挙げられており，団体側の事務の軽減のみならず，大学の推薦に信頼と期待をしていることが表れている。

このような状況下，一次段階の推薦が求められると，当学部では従来，当該委員会で，それぞれの財団が求める受給者像に近いと思われる応募者の中から，優秀性の側面，経済的困窮度，過去の受給歴，学年，国際交流会館への入居歴，家賃金額など，知りうる限りの状況を配慮して，必要に応じて面接も行い，推薦者を決定してきた。優秀性の基準は大体どこの大学でも学業成績で測られている。共通課程を経ない博士課程における成績の公平性に対する疑念はありながら，当学部でも同様にしてきた。しかし，私費留学生が増加し，奨学金獲得の競争が激しくなるに伴い，推薦の決定要因が分からないとの不満の声は高まっていった。採用されなかった学生からは「君は何か悪いことでもしたのか，と故郷の家族からも問われる」との衝撃的な発言まで聞くに至った。中国人留学生会にも，公平と思う代案を考えるよう求めたことがあったが，取って換えられるだけの案は出ず，出されたのは「学習奨励費を同じ人が二度受給することだけは避けてほしい」という要望だけだった。そこで，彼らの声も参考にしながら，2003年度からは，成績よりも客観性が高いと思われる過去の受給金額を最優先させる推薦方式を取り入れた。

日本で学ぶ117,302人（2004年５月１日現在）の外国人留学生の内，中国からの留学生は77,713人（約66.3%）に上る。その内の97.7%は私費留学生で，これは全外国人私費留学生の72%にあたるとなれば，奨学金応募者の大半は中国人私費留学生である。文化を異にする彼らが奨学金をどのようなものと捉えているのかを知り，彼等の視点を選考審査に反映させることは結果に対する公平感に繋がる可能性が高い。そして，ひいては「日本留学満足度」を高めることに貢献できるのではないかと考え，奨学金に関わる以下の項目を検証することとした。

1　受給者（中国人留学生，特に研究科留学生）の奨学金に対する視点
2　優秀性（研究科，特に博士課程）の尺度の妥当性
3　学内の推薦基準の明瞭さと周知度
4　支給団体の条件とその団体が描く受給者像の明瞭さ

検証方法は，留学生へのアンケート，聞き取り，資料調査である。

## Ⅲ　調査方法

当学部においては，2000年～2004年の５年間，奨学金申請者全員が中国籍であった。彼らが奨学金をどのように位置づけ，優秀性はどのように計るべきと考えているか，また現在の推薦方法をどのように感じてい

るか等を尋ね，2004年11月末，学部（４名）および医学研究科所属（36名）の中国人留学生と研究者や職員として在籍中の5名の元研究科留学生，計45名に対して，アンケート調査を実施した。アンケートは記名式の一部自由回答を含むプリコード形式を取った。日本語版と中国語版を作成配布し，２週間後に回収した（巻末の調査書を参照）。回答で不明な点等，さらに確認のための面談とメールによる聞き取り調査を行った。調査にあたっては，回答はプライバシーが保護できる方法で，この調査目的以外に使用しないことを明記した上で，協力していただいた。

奨学金団体が求める条件の検証については，当医学部の留学生が対象となる21の民間奨学金の募集要項を資料とした。まず，金額等の基本項目を抽出し，さらに要項の中で，受給者像と考えられる「優秀な学生」といった言葉を，抜き出し，記載された順に表に加えてリスト（表１）を作成した。それらの条件記述から，財団がどのような奨学生を求めているか明瞭に理解できるか，また記述にどのような印象を持つか，留学生へ聞き取り調査をした。なお，聞き取りはアンケートに記名回答した者に対して行った。

## Ⅳ　調査結果と考察

### A　中国人留学生に対するアンケート調査

１　アンケート回収率　アンケートを送付した45名の内27名から回答があり，回収率は60％であった。

２　奨学金とは何か（表２）

単純集計の後，在日期間を尺度に，分析を行ったのが表２である。数量が限られているため，あえて統計的処理は加えなかった。加えて，聞き取り面談では，以下の点も確認できた。

① 母国では奨学金は前年の総合成績評価に基づき，優秀者に支給されており，経済支援とは別のもの。経済支援で支給されるものは奨学金とは捉えていなかった。

② 母国での奨学金の金額は生活にゆとりを生むほどの額ではなかった。

③ 研究科講座における師弟関係：指導教授を人生の師として捉え，教授による差はあるものの，経済的な援助も含めて，指導教授が責任を担うことが多い。

**留学生に対する奨学金に関する調査**

表２－１～６　奨学金とは何か

①全くその通り　②ややそのとおり
③必ずしもそうではない　④全く違う

１）１年未満　２）１年～２年
３）２年～４年　４）４年以上

1　なければやれない

| 在日期間 | ① | ② | ③ | ④ | ①+② |
|---|---|---|---|---|---|
| 4） | 0 | 3 | 4 | 2 | 10人中３人 |
| 3） | 0 | 3 | 4 | 3 | 10人中３人 |
| 2） | 0 | 1 | 2 | 1 | ４人中１人 |
| 1） | 0 | 0 | 2 | 1 | ３人中０人 |
| | 0 | 7 | 12 | 7 | |

2　基本的生活の補助

| 在日期間 | ① | ② | ③ | ④ | ①+② |
|---|---|---|---|---|---|
| 4） | 5 | 4 | 0 | 0 | 10人中９人 |
| 3） | 3 | 6 | 1 | 0 | 10人中９人 |
| 2） | 3 | 1 | 0 | 0 | ４人中４人 |
| 1） | 1 | 2 | 0 | 0 | ３人中３人 |
| | 12 | 13 | 1 | 0 | |

3　ゆとりを与える

| 在日期間 | ① | ② | ③ | ④ | ①+② |
|---|---|---|---|---|---|
| 4） | 3 | 2 | 1 | 3 | 10人中５人 |
| 3） | 0 | 3 | 1 | 6 | 10人中３人 |
| 2） | 0 | 3 | 1 | 0 | ４人中３人 |
| 1） | 0 | 1 | 0 | 2 | ３人中１人 |
| | 3 | 9 | 3 | 11 | |

4　優秀性の証

| 在日期間 | ① | ② | ③ | ④ | ①+② |
|---|---|---|---|---|---|
| 4） | 3 | 0 | 6 | 0 | 10人中３人 |
| 3） | 1 | 2 | 4 | 3 | 10人中３人 |
| 2） | 0 | 3 | 1 | 0 | ４人中３人 |
| 1） | 1 | 1 | 1 | 0 | ３人中２人 |
| | 5 | 6 | 12 | 3 | |

5　当然の経済支援

| 在日期間 | ① | ② | ③ | ④ | ①+② |
|---|---|---|---|---|---|
| 4） | 1 | 3 | 2 | 3 | 10人中４人 |
| 3） | 1 | 3 | 4 | 2 | 10人中４人 |
| 2） | 1 | 2 | 0 | 1 | ４人中３人 |
| 1） | 0 | 2 | 1 | 0 | ３人中２人 |
| | 3 | 10 | 7 | 6 | |

6　運がよければ当たる

| 在日期間 | ① | ② | ③ | ④ | ①+② |
|---|---|---|---|---|---|
| 4） | 1 | 5 | 1 | 2 | 10人中６人 |
| 3） | 2 | 5 | 2 | 1 | 10人中７人 |
| 2） | 0 | 0 | 3 | 1 | ４人中０人 |
| 1） | 0 | 0 | 1 | 2 | ３人中０人 |
| | 3 | 10 | 7 | 6 | |

④　中国からの私費留学生には，働きながら苦学することに価値を置く「勤工倹学」の文化がある。（注２）

これらを踏まえて，以下に，調査結果を分析・考察する。

ａ　奨学金は「なければ生活できないもの」か「生活の補助」か「ゆとりをあたえてくれるもの」か？（表２－１～３）

中国人留学生は在日期間の長短に関わらず，ほぼ全員が，奨学金は「生活の補助として必要」と考えており，渡日の段階で，すでに生活費補助として奨学金を見込んでいる。約３/４は奨学金を「なければ生活できないもの」とは捉えていない。「ややそうだ」と回答した残り１/４の回答者は在日期間の長い者で，来日当初はなくてもやれると考えているが，実生活を積むに従い，奨学金のない生活の厳しさを実感する結果ではないかと思われる。

母国での奨学金は生活にゆとりを生むほどの金額ではなかったところから，彼等が渡日当初は奨学金を「生活費の補助」と考え，「ゆとりを与えてくれるもの」と捉えないのは当然である。しかし，在日期間が長い者の半数は「そうだ」と回答するようになってくる。それは，額面の大きい奨学金が受給できるようになった学生の実感であり，彼らをみている学生にとって「そのように写ってくる」ということではないかと考えられる。

ｂ　奨学金は「優秀性の証」か「当然の経済支援」か「運がよければ当たるもの」か？（表２－４～６）

「優秀性の証」に関して「必ずしもそうではない」「全く違う」と回答した者は，さらなる聞き取り調査で，日本に来てからそう思うようになったと答えている。中国では成績によって奨学金を支給されていた故に「奨学金は優秀性の証」と思っていたが，日本では，受給者決定結果を見て，必ずしもそうではないという思いが強くなったのであろう。

「優秀性の証」も「当然の経済支援だ」とする思いもともに，在日期間が長くなるほど弱まるが，「当然の経済支援」の方が「優秀性の証」に比べて，強く残る傾向を示していた。『１年頑張れば，２年目からは生活は大丈夫』との教授の言葉からも「経済支援をしてもらえると思った」学生に見られるように，指導教授を「人生の師」と仰ぎ，何でも相談し問題解決してくれる人と捉える中国の研究科講座の考えが影響している可能性がある。

「運がよければ当たる」という観方は渡日したばかりの留学生には全く見られないにもかかわらず，長期滞在者には表れている。これは，日本的な考えの反映あるいは不満の裏返しと見ることもできるかもしれない。

３　学業成績のみを推薦基準に使う案と標準語学試験の活用について（表３，４）

学業成績のみを推薦基準に使う案に対して，過半数（52％）は「どちらとも言えない」と回答している。その理由としては，総合的に判断すべきとの考えが主流であったことと，研究科での客観性の乏しい成績を尺度とすることは公平ではないとの考えに基づいていた。

成績に代わるものとして，TOEFL，TOEIC，日本語能力試験などの標準語学試験の結果を活用する案には，「公平だから」「コミュニケーション能力は基本だから」賛成というのは５名（19％）のみであった。「語学力≠学力」といった理由で反対は９名（33％）いた。その内５名は「成績のみによる推薦」に賛成した回答者である。「いろいろな状況がある」とか，「語学力だけではない」といった，反対者と同様の理由で，「どちらとも言えない」と答えたのが13名（48％）で最も多かった。その内９名（69％）は「成績のみによる推薦」案に対しても，「どちらとも言えない」と回答した者である。奨学金は優秀性を優先すべきとは思うが，学業成績だけでなく個々の状況も合わせて，総合的に判断してほしいとの心情が見て取れる。

４　推薦基準に加えるべき複数項目（表５）

推薦基準に学力だけでなく，複数項目を考慮すべきと考える回答者が選んだ項目の優先順位１～３位を記載したのが表５である。最優先を「成績」とするか「困窮度」とするかは10件対７件で「成績」の方が多く，次の「受給額」が３件で続く。最優先されるべきは「成績」と考えている者のほうが多いのは明らかであるが，大学院での成績が必ずしも公平には写っていないことから，各項目を「優秀性」（成績，語学，発表，論文，Impact Factor）と「経済支援」（困窮度，受給額，学年，免除，家族）の範疇に二分し，それぞれを集計してみると，最優先の回答だけでは14件対14件となり，３位までの総回答数を集計してみても37件対37件と同数になった。従って，「成績」を最優先すべきと思いながらも，奨学金は優秀性の証としても経済支援としてもみてほしいと考えていることが推察される。

表３　成績のみによる推薦

| | | |
|---|---|---|
| 賛成 | 9 | 35% |
| 反対 | 4 | 15% |
| どちらとも言えない | 14 | 52% |
| | 27 | |

表４　標準語学試験の活用

| | | |
|---|---|---|
| 賛成 | 5 | 19% |
| 反対 | 9 | 33% |
| どちらとも言えない | 13 | 48% |
| | 27 | |

表５　考慮すべき項目

| | 最優先 | ２番目 | ３番目 |
|---|---|---|---|
| 成績(14) | 10 | 3 | 1 |
| 困窮度(14) | 7 | 4 | 3 |
| 受給額(９) | 3 | 4 | 2 |
| 学年(６) | 2 | 2 | 2 |
| 語学(７) | 1 | 3 | 3 |
| 発表(２) | 1 | 0 | 1 |
| 論文(７) | 1 | 4 | 2 |
| Impact Factor(７) | 1 | 2 | 4 |
| 免除(７) | 1 | 2 | 4 |
| 家族(１) | 1 | 0 | 0 |
| | 28 | 24 | 22 |

表６　困窮度

| | | |
|---|---|---|
| 極めて高い | 12 | 44% |
| 高い | 6 | 22% |
| やや高い | 5 | 19% |
| そうは言えない | 3 | 11% |
| 低い | 1 | 4% |
| | 27 | |

表７　選考基準に対する満足度

| | | |
|---|---|---|
| これでいい | 1 | 4% |
| まぁ満足 | 5 | 19% |
| やや不満 | 6 | 22% |
| 不満 | 6 | 22% |
| どちらでもない | 7 | 26% |
| ? | 2 | 7% |
| | 27 | |

５　困窮度（表６）

困窮度が「低い」または「高いとは言えない」と回答した国費やロータリーなどの高額奨学金受給者４名を除き，残り23名は，それぞれ困窮度が「極めて高い」44%，「高い」22%，「やや高い」19%と考えており，85%が厳しい生活を強いられていると感じている。そしてそれには在日期間による差は見られず（$p$値0.963)，「貨幣価値，平均収入があまりにも異なる国の学生にとっては，母国での収入の差は日本では無意味で，困窮度には差がない」とのコメントもあるように，留学生活の厳しさが伺われる結果と言える。

６　現在の推薦方法に対する満足度（表７）

「これでいい」「まぁ満足」と答えた者は23%，「不満」「やや不満」が44%，「どちらでもない」が26%であるが，在日期間が長いほど，有意に不満の傾向が見られた（$p$値0.045)。不満の理由として挙げられた中では，「どのように推薦者が決定されているかが明らかでない」「どのような基準でもいいから，同じ基準を継続したほうがよい」といったコメントが複数あった。このことは，口頭説明をしているにも拘らず，推薦方法が十分周知されていないことを窺わせ，そのことも不満の要因になっている。

７　支給団体の受給者条件とそれに対する留学生の印象（表１，８）

本学医学部の留学生が対象となる21の民間奨学金の募集要項の記述では，学業優秀を最優先に挙げるものが当然トップ（11件）であるが，同時に「人物の優秀性」を挙げるもの（10件）も多い。受給者には将来社会にとって有意義な人物になってもらいたいとの高邁な目的も意図しているのかと思われる（表８－１)。しかし最も多いのは「学業・人物ともに優秀で，援助を必要としている留学生」(13件）となっている（表８－２)。先に挙げた留学生奨学団体連絡協議会の51団体に対する調査（'99）においても優秀性と経済支援を記載するものが大半であり（表８－３)，当学部に案内される奨学団体の条件記述は平均的であると言える。

これに対する留学生の印象は，「明瞭です」という者もいたが，「挙げられている項目は理解できそうだけど，実際優秀性は何で計るのかが分からない」ため「あいまい」に感じるという者のほうが上回っていた。「留学交流」編集部[7]も，「優秀性の基準のあいまい

**支給団体が求める条件に関する調査**

表８　団体が求める条件等

対象：本調査の21団体

１．　記載条件の記載順及び頻度

| | | 記載順と頻度 | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | １） | ２） | ３） | ４） | ５） | ６） |
| 記載条件 | 学業優秀 | 11 | 2 | 3 | | | |
| | 要援助 | 4 | | 4 | 5 | | |
| | 国際理解 | 2 | 2 | | 1 | | 2 |
| | 品行方正 | 1 | | | | | |
| | 人物優秀 | | 10 | | 1 | | |
| | 心身健康 | | 1 | 5 | 2 | | |
| | 国際交流 | | | 2 | 1 | | |
| | コミュニケーション力 | | | 1 | 1 | 2 | |

対象：本調査の21団体

２．優秀性か経済支援か

| | | |
|---|---|---|
| 学業面 | 3 | 14% |
| 学業＋支援 | 13 | 62% |
| 国際親善 | 2 | 10% |
| 記載なし | 3 | 14% |
| | 21 | |

４．重複受給

| | | |
|---|---|---|
| 可 | 3 | 14% |
| 条件付き可 | 7 | 33% |
| 不可 | 11 | 52% |
| | 21 | |

対象：協議会調査48団体

３．支給条件と目的

| | | |
|---|---|---|
| 優秀性 | 42 | 88% |
| 経済支援 | 35 | 73% |
| 出来るだけ大勢 | 13 | 27% |
| その他 | 13 | 27% |

（当てはまる項目すべてを選択）

４．重複受給

| | | |
|---|---|---|
| 可 | 10 | 21% |
| 条件付き可 | 13 | 27% |
| 不可 | 25 | 52% |
| | 48 | |

さ」に対する留学生達の意見があることを指摘している。多くの外国人にとって日本人のコミュニケーションの「あいまいさ」に対する抵抗感の強さはよく知られているところでもある[8)9)]。

以上をまとめると，回答者達は，母国において相対的に優秀で，奨学金を受給していた学生が多いこともあり，日本に来る前は「奨学金は優秀性の証」と思っていたが，日本での奨学金受給者決定結果を見て，必ずしもそうではないと思うようになっていった。そして「勤工倹学」に価値を置きながらも，言葉もままならない中で，生活のためだけの肉体労働的なアルバイトは苦しく，避けられるなら避けたい気持ちを持っている。このように経済的に不安定な生活も起因して，奨学金を優秀性だけで決定してほしくないとの思いを強めている。また，中国での指導教授との師弟関係や『１年頑張れば，２年目からは生活は大丈夫』との受入れ講座の教授の言葉は，経済的にも教授が困らないようにしてくれることを期待させる要因にもなり，採用にならなかった時の不満を助長する可能性もあると考えられる。

## Ⅴ　留学の満足度を高められる奨学金制度の構築のための提言

北大の関ら[10)]は，多くの私費留学生が経済的に不安定な状態におかれて，イライラ感や疲労感を募らせていることを指摘している。一方，研究科留学生に対する東京工業大学の満足度調査[11)]においては，満足度と学習奨励費の間に有意の相関が見られたと報告されている。学習奨励費は額面では平均的（当時7.3万円，現在７万円）であるが，配分式になっており，ほぼ推薦＝採用という安心感が公平感を与えていると分析されている。そうでなくても不安定な状況に置かれるのが留学生活である。できる限り不安定性を排除できる環境を整えるのが留学生に対する支援であると考えれば，生活の根幹を担う奨学金においてこそ，明瞭で，確実なシステム作りが極めて重要と言える。調査結果に表れた留学生の視点を踏まえて，大学としてできること，実行すべきことを以下に挙げたい。

### A　学内の推薦基準の周知

互助精神と強いネットワークを持った中国人留学生達であっても，彼等から推薦基準を尋ねられた時個々に口頭説明をするだけでは，情報を徹底させられない可能性が高く，そのことが不公平感を助長する。定期的に説明会を実施して，一斉に周知させる意義は大きい。

### B　研究科における客観性のある成績評価方式の確立

サトー国際奨学金財団は，『成績のよい学生は間違いなく優秀であるが，同時に，大学院の成績は「優」がインフレ状態で，一貫性のなさは問題である』と指摘している[5)]。筆者のような国際教育交流関係者の間では，日本の大学の成績が客観性に欠けるとして，米国であまり信じられていないこともよく語られるところである。受給者である留学生も，客観的である限りにおいて，最優先すべきは成績であるとの認識に立っている。大学，特に大学院には「内からみても外からみても判断基準となりうる成績評価方式の確立」が急務と言える。

### C　留学生数の定員化と一定の推薦基準の継続化

推薦基準が一定に保てることは合理的であり，留学生側もそれを欲している。しかし，留学生数が大きく変動すれば，推薦基準を固定する方が不公平を生じかねない。貨幣価値と生活費が母国と大幅に異なる日本で，苦学を強いられている私費留学生が最低限安心して学業に専念するには，受入れ側は，提供できる生活環境と照らし合わせた適正な受入れ人数を検証し，その上で受入れ数を定員化することも重要ではないだろうか。そうすれば，一定の推薦基準を継続することも可能となり，不安定性の排除にも貢献できると考える。

**D　大学から奨学金支給団体への要望として**

1　あいまいさの排除

団体の求める奨学生の条件はできる限り“あいまいさ”を排除し，受給者が理解しやすい趣旨を明示してくれるよう大学として各団体に要望する。例えば，優秀性を趣旨とするか，経済支援を趣旨とするかを明らかにする。優秀性の基準には研究成果の発表を義務付けるとかの具体性が求められるであろうし，個人の能力に対して支給するのが目的なら「経済的援助を必要とする者」の記述は外す等の検討が必要と思われる。(注３)

2　配分方式と渡日前確約型奨学金の増加

応募チャンスは減っても，推薦されれば，ほぼ確実に採用される配分方式の奨学金をより多く取り入れてくれるよう大学として各団体に要望する。例えば，日本学生支援機構の「短期交換留学推進制度奨学金」は，大学を窓口にして，協定校からの学生を大学が機構に推薦し，配分枠として採用され，渡日前に受給が確約されるものである。民間団体と大学が協力すれば，現行の入学後申請型の奨学金を配分式の渡日前確約型奨学金に変更することも可能ではないかと思われる。日本はアルバイトをしながら留学し，学位取得が可能な特異な国である。アルバイトをすれば，何とかなると思って来日しても，その厳しさは体験しなければ実感できない。日本語にも日本文化の中での生活にも不慣れで，最も不安感が強い渡日当初こそ，生活を安定させることは重要である。

## Ⅵ　おわりに

英米，オーストラリアなど英語圏の大学は，質の高い教育を提供することで，高い授業料を払ってもらう「留学生顧客主義」を取っている。日本も同様にすべきとの議論もある。しかし，提供する教育や研究を魅力的にすることは大前提であるとしても，わが国は高い授業料でも喜んで支払ってくれる留学生を呼び込むことが比較的容易な英語圏の状況とは異なる。わが国を優秀な留学生達に選択してもらうためには，今後も当分は奨学金が重要なファクターであることは否定できない。貴重な財源である奨学金が受給者に正当に評価され，留学生の日本留学の満足度に貢献できなければ，「もったいない」と考えるのは筆者ひとりだけだろうか。

本稿は，「留学生教育学会」(2005年８月１日，北陸大学）において口頭発表した原稿を元に加筆したものである。

---

**(注１)**　文部科学省高等教育局学生支援課のデータによれば，2004年５月１日現在のわが国の受入れ外国人留学生数は117,302人で，そのうち，国費留学生9,804人，外国政府派遣留学生1,906人，私費留学生105,592人である。2000年度以降の私費留学生の動向は，人数(53,640→68,270→85,024→98,135→105,592）も比率(83.8％→86.6％→89％→89.6％→90％）も減ってはいない。

**(注２)**「勤工倹学」とは苦学して上を目指すことで，1920年代，周恩来，鄧小平などがフランスへ留学し，苦学して先進の知識を身につけ，中国革命を担う人材となったことに端を発しているが，現在でも一般的に用いられている。
(http://www.panda－mag.net/keyword/ka/kinkou-kengaku.htm)

**(注３)**　金額が大きく２年間受給が可能で，留学生の間でも人気が高い奨学金を支給しているロータリー財団は，当初「経済的に恵まれない留学生」の支援を最優先していたが，2002年度からは「将来世界で活躍できる優秀な留学生」という方針を前面に押し出し，「支援の必要な人」という項目ははずした。優秀性の基準を細かく記載した上で，大学に学業・人物面で優れた学生の選考を依頼し，多文化への理解とコミュニケーション能力を財団による直接面接によって計るコラボレーションシステムを取りいれるようになった[12)]。

**謝辞**）この調査に協力してくれた信州大学医学部の中国人留学生のみなさん，そしてアンケートの中国語訳をお手伝いくださった丁開さん，倪秀成さんに深謝いたします。

## 調　査　書

A）奨学金はあなたにとってどういうものですか。自分の同意の度合いによって，それぞれの項目に①～④のどれかで答えてください。

① 全くそのとおり
② ややそのとおり
③ かならずしもそうではない
④ 全くそうではない

1．（　　）なければ，生活できないもの
2．（　　）基本的生活費の補助となるもの
3．（　　）生活にゆとりを与えてくれる収入源
4．（　　）自分の優秀性の証になるもの
5．（　　）日本は母国とは貨幣基準が相当異なる国だから，留学生は生活のために誰もが受給して当然な経済支援
6．（　　）運がよければ受給できるもの
7．その他の捉え方があれば記述して下さい（　　）

B）推薦順位は成績順位で決定されるべきという考え方があります。このように成績のみで推薦順位を決定するという案について，あなたはどう考えますか。該当するものに○をしてください。

1．賛成　　2．反対　　3．どちらとも言えない

C）成績以外の要素も基準に加えるべきだと考える人に尋ねます。では，奨学金はどういう人に支給すべきだと思いますか。以下に推薦順位を決める際の要因として考えられる事柄を並べました。必要要因として考慮されるべきだと思う事柄を幾つでもすべて選び，優先順位の高いほうから順に1，2，3，，，と付けてください。

1．（　　）学業成績の優秀さ
2．（　　）語学力（英語か日本語）
3．（　　）学会発表等の数の多さ
4．（　　）論文の数
5．（　　）論文掲載ジャーナルのインパクトファクター
6．（　　）生活の困窮度
7．（　　）学年の上下
8．（　　）過去の奨学金受給額の多少
9．（　　）年齢の高さ
10．（　　）性別の比率
11．（　　）授業料免除のあるなし
12．（　　）在留家族のあるなし
13．（　　）住居費用の高さ
14．（　　）国際交流会館入居歴
15．（　　）出身校による人数的比率
16．（　　）所属講座の人数的比率
17．その他（　　）

D）大学院レベルにおいては現状の学業成績をそのまま推薦基準にすることに異議があるのも事実です。このような状況の中で，公平性と一定の水準が保たれ，身近で，意味ある試験として，TOEIC（英語能力試験）や日本語能力試験などの語学能力試験があります。このような語学試験の成績を学業成績の代わりに活用する案について，あなたはどう考えますか。該当するものに○をし，理由も書いてください。

1．賛成　理由（　　）

2．反対　理由（　　）
3．どちらとも言えない　理由（　　）

E）D）に賛成の場合，どの語学力試験にすべきだと思いますか。その理由は何ですか。
試験名）
理由）

---

F）ここからはあなたのことをお尋ねします。
1．かまわなければ，お名前を教えてください。＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿
あなたの属性と生活状況を尋ねます。該当するものを選び，○をつけて下さい。
2．出身地　　中国（東北部　　東沿岸部　　内陸部　　南部）
3．所属　　学部　　院（修士　　博士）
4．分野　　基礎系　　臨床系　　その他
5．在日期間　1年以内　1年以上2年未満　2年以上4年未満　4年以上
6．在留家族（留学生以外の家族）のあり，なし：
＜あり＞　1．ずっと滞在　　2．現在一時的に滞在中
＜なし＞　1．全く1人　　2．一時家族が滞在するが現在は1人
7．経済状況　　国費留学生　　私費留学生
8．アルバイト状況
・している　　その理由）
1．生活に必要
2．経済的な利点以外にもメリットがあるから。
3．その他（　　）
・したことがあるが，今はしていない
その理由）
1．研究，勉強が忙しくて時間が取れない
2．奨学金が受給できたから
3．その他（　　）
・したことがない
その理由）
1．やりたくても時間が取れない
2．指導教官が許可してくれない
3．アルバイト先を見つける方法がわからない
4．雇ってもらえない
5．やる理由がない
6．その他（　　）
9．在学中に奨学金を受給したかどうかについて
・受けたことがある　　1．十分　　2．十分とは言えない
・受けたことがない
10．授業料免除について：該当する内容を選び，○をつけてください。
1．入学以来ずっと全額免除されている。
2．全額免除あるいは半額免除をどちらも受けたことがある。
3．全額免除はないが，半額免除を受けたことがある。
4．授業料免除を受けたことがない。
11．自分の困窮度は～と思う：該当する内容を選び，○をつけてください。

1．極めて高い　　2．高い　　3．やや高い
4．高いとは言えない　　5．低い

12．現在の推薦方法に対する満足度：
1．これでいい　　2．どちらかと言えば満足
3．やや不満　　4．不満　　5．どちらでもない

その他のコメント）どのようなことでも思いつくことがあれば記述してください。(中国語でも英語でも構いません。)

## 文　献


1) 河田昌一郎：奨学金受給者決定までの過程と悩み.「留学交流」日本国際教育協会（編）12：16-17，1996
2) 二宮　皓：留学生の生活の実態と奨学金について.「留学交流」日本国際教育協会（編）9：6-9，1997
3) 栖原　暁：留学生の生活支援―受動型から能動型への展開―.「留学交流」日本国際教育協会（編）8：2-5，2001
4) 牧かずみ：留学生の生活支援を考える.「留学交流」日本国際教育協会（編）6：6-9，2003
5) 奈良間英一：奨学財団―試行錯誤の八年間―.「留学交流」日本学生支援機構（編）11：14-17，2004
6) 留学生奨学団体連絡協議会：奨学生の募集選考に関するアンケート調査報告，1999
7) 「留学交流」編集部：厳しい留学生の生活現状―明海大学浦安キャンパス留学生連合会懇談会報告―.「留学交流」日本国際教育協会（編）10：14-15，1998
8) 小宮修太郎，平形裕紀子，長能宏子：日本人の話し方について留学生が持つ印象とその要因―中国人，韓国人，台湾人留学生の比較―．筑波大学留学生センター日本語教育論集 16：47-82，2001
9) 牧かずみ：医学研究科における日中異文化相互理解の実態―言語行動に対する意識を中心に―．信州医誌 51：299-308，2003
10) 関　道子，神谷順子，山下好孝，浪田美知枝：「外国人留学生と日本人受入れ側の異文化接触による相互の意識変容に関する縦断的研究」研究成果報告書．2004
11) 槌田和美，林　高行，廣瀬幸夫：理工系大学院における留学生施策への提言．留学生教育　留学生教育学会 9：95-112，2004
12) 宮崎幸雄：ロータリー米山奨学金における今後の留学生支援の展開.「留学交流」日本学生支援機構（編）11：18-21，2004


（H 17．10．21 受稿；H 17．11．28 受理）